

令和元年6月13日現在

機関番号：35307

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02389

研究課題名(和文) 中世顕密寺院における役行者伝の包摂と正統化についての研究

研究課題名(英文) Research on the Legitimacy of En-no-Gyoja's Biography in Esoteric and Exoteric Temples in the Middle Period

研究代表者

川崎 剛志 (Kawasaki, Tsuyoshi)

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：70281524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：平安後期から鎌倉後期にかけて日本仏教の一道として修験道が成立する過程で、思想・儀礼・組織の整備とともに、三国伝来の仏教にふさわしい修験の歴史が創出され受容された。その言説の中心にあったのが、弘法大師による真言密教将来以前に、夢中で龍樹菩薩＝龍猛から役行者が灌頂を受けたと語る『箕面寺縁起』であり、その所説は、修験の祖、役行者が箕面滝で灌頂を受け、大峯修行を通して行者らに灌頂を授けたとの認識へと展開した。本研究では、園城寺では熊野三山検校の権威を高めるため、東大寺東南院では醍醐寺との本末相論に勝つためといった具合に、それぞれの都合で上述の説が支持された結果、広く顕密寺院で定着したことを解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外を問わず、修験道は日本固有の山岳宗教とみられてきたが、その評価は古代以来変化し続けてきた修験道のありようの一面を伝えるに過ぎない。本研究では、中世には、顕教・密教と並ぶ正統な日本仏教の一道として修験道は存在し、そのありようにふさわしい修験の歴史や祖師の伝記が創出され定着したことを解明した。その成果は、日本固有という安易な評価を相対化し、歴史的な存在として修験道を再評価するのに寄与すると同時に、時々の状況を正当化すべく作り伝えられた伝記や縁起の機能の重さを再認識するのに寄与すると考える。

研究成果の概要(英文)：From the late Heian Period to the late Kamakura Period, Shugendo gradually came to be recognized as a stream of Japan's Buddhism and became part of legitimate history for Japanese Buddhism transmitted from India. One of the most influential books was "Mino'o-dera Engi", which told that En-no-Gyoja, the founder of Shugendo, had received abhiseka from Nagarjuna Bodhisattva in his dream, before Kukai. After that, some monks said that Yamabushi had received abhiseka from En, by their ascetic practices, through Mt. Omine, like En. Some monks in Exoteric and Esoteric temples, for example Onjoji or Todaiji Tonan'in, also accepted this view under their own existing conditions. As a result, En was generally recognized as a member of the legitimate genealogy of Japan's Esoteric Buddhist teachings.

研究分野：日本文学

キーワード：役行者 箕面寺縁起 修験道 灌頂 大峯

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平安後期から鎌倉後期にかけて日本仏教の一道として修験道が成立する過程で、思想・儀礼・組織等が整備されるとともに、三国伝来の仏教にふさわしい修験の歴史が創出され受容された。従来の研究では、修験道の祖、役行者の伝記については、内容それ自体の変化ばかりが注目され、伝記の書き換えが求められた社会的背景や、書き換えられた伝記の果たした社会的機能に目を向けられることは少なかった。そうした研究の動向を転換させる必要があると考え、本研究に着手するに至った。

### 2. 研究の目的

中世における役行者伝の正統化という汎宗派的現象を、それを撰述あるいは所持した顕密寺院の活動と論理に照らして評価することを目的とする。

山伏の修験を包摂した中世の顕密寺院には、釈迦、聖徳太子、祖師らに準じて、修験の祖、役行者の図像と伝記が備えられた。俗形のまま役行者は、三国伝来の仏法の正統を引く、王法と仏法を護持する者へと変換され、正史『続日本紀』に淵源する伝記もそれにふさわしい事跡が加えられ、本文が書き換えられた。なかでも当時もっとも重用されたのが、夢中の灌頂という事跡を構えて弘法大師に至る真言密教の血脈の傍流に役行者を定位した、漢文体の『箕面寺縁起』(承安三年(1173)以前撰述)であった。本研究では『箕面寺縁起』を中心にこの課題に取り組む。

### 3. 研究の方法

原本調査に基づいて『箕面寺縁起』の基礎研究を行う。具体的には、本文校訂、訓読、及び注釈である。

日本仏教史の枠組みのなかで役行者伝の正統化という現象を位置づけることを目指して、当時の顕密寺院の宗教事業の動向に目を配り、その動向が本件にどのように関わるのかを考察する。その際、学際的、国際的な視野を確保して、本研究の成果が多角的な議論に発展しうよう図る。具体的には、二年めに国際研究集会を開催して本研究の中間報告を行い、その場で受けた批判や批判に基づく議論をフィードバックさせるかたちで研究の方向や精度を見直し、最終成果に結実させる。

上記と関わり、米国在住の宗教学者、日本在住の美術史学者を研究協力者として招き、宗教学、美術史学の最新の研究動向や成果を踏まえて本研究を展開させる。

### 4. 研究成果

『箕面寺縁起』の基礎研究については、本文校訂、訓読まで完成し、現在、注釈を進めている。完成次第、公刊する予定である。

当初の予定通り、3年計画の2年めにあたる平成29年6月、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で、同校主催・本科研共催で、国際研究集会「Repositioning Shugen - New Research Direction on Japanese Mountain Religion -」を開催し、研究代表者の川崎は共同コーディネーター(全4名のうち)も務めた。本集会の主な目標は、日米の研究者の間で修験道研究の情報と課題を共有すること、及び重要な研究対象の一つに『箕面寺縁起』があるとの認識を浸透されることであった。本科研の組織からは、川崎、仁木、ブレアの3名が参加して、うち川崎と仁木が『箕面寺縁起』に関する研究発表を行った(5[学会発表])。川崎は縁起の概要について、仁木は漢文筆者の教養の程度について述べた。また学際的な議論への展開を図って、長谷川賢二氏(徳島県立博物館・歴史学)、鈴木正崇氏(慶應義塾大学・文化人類学)、藤岡穰氏(大阪大学・日本美術史)を招いて講演・研究発表をお願いした。同集会全体の成果が米国で英文雑誌として刊行される予定である。

同集会での議論を経て、夢中で龍樹菩薩から役行者が灌頂を受けたという同縁起の所説の社会的影響を考察する場合、日本の灌頂の歴史のなかでそれを位置づける視点が必要だと気づいた。よって、その視点から、平安後期～鎌倉後期の役行者伝及び大峯関連資料を読みなおして精査し、その成果を、平成30年5月、カリフォルニア大学サンタバーバラ校主催の国際研究集会「The World of Abhiseka: Consecration Rituals in the Buddhist Cultural Sphere」で発表した(5[学会発表])。同発表では、修験道独自の灌頂が大峯で開かれたのは南北朝時代以降だが、それ以前から、修験の祖、役行者が箕面滝で灌頂を受け、大峯修行を通して行者らに灌頂を授けたとの説が構えられていたこと、そして顕密寺院でも、例えば園城寺では熊野三山検校の権威を高めるため、東大寺東南院では醍醐寺との本末相論に勝つためといった具合に、それぞれの条件と理由のもとで上述の説が支持され、その結果、同言説が浸透、定着したことを述べた。そして、この内容と下記の内容を統合して、平成30年12月、コロンビア大学仏教学セミナーで招待講演を行った(5[学会発表])。

在米の研究協力者から情報提供を受けて議論するなかで、霊山へ埋経する行為と、埋経するにふさわしい信仰史の創出とが、同時に行われていたことに気づき、ワークショップの開催を提案した。平成30年11月、ハーバード大学(ライシャワー日本研究所)でワークショップ「Engi and Sutra Burial」が開かれ、川崎とブレアが発表した(5[学会発表])。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

川崎剛志、『箕面寺縁起』の撰述と受容、就実表現文化、査読無、第11号、2017、pp.1-15

川崎剛志、承久の乱後の熊野三山検校と熊野御幸、アジア遊学、査読無、第221号、2017、pp.218-227

川崎剛志、当麻寺 史 の更新 公文書「流記」の出現、人文知のトポス(和泉書院)、査読無、2018、pp.125-132

仁木夏実、後宇多院の上丁御会をめぐって、アジア遊学、査読無、第229巻、2019、pp.39-49

〔学会発表〕(計8件)

Tsuyoshi Kawasaki, En no Gyoja ' s Legitimization in the Framework of Esoteric Temples, International Conference " Repositioning Shugendo ", University of California, Santa Barbara (米国) 2017

Natsumi Niki, Mino ' odera Engi: The Education of Monks and Lay people, 同上、2017

仁木夏実、金剛寺蔵『明句肝要』の典拠とその利用、説話文学会第169回例会、大阪市立大学、2018

Tsuyoshi Kawasaki, The Formation and Development on Ascetic Practice at Mt.Omine as an Esoteric Buddhist Kanjo Ritual, International Conference " The World of Abhiseka: Consecration Rituals in the Buddhist Cultural Sphere, University of California, Santa Barbara (米国) 2018

川崎剛志、西行の大峯修行の再評価、西行学会大会、和歌山県立近代美術館、2018

Tsuyoshi Kawasaki, Forged History of Mt.Omine Worship in " Shozan-Engi ", Workshop " Engi and Sutra Burial : the Decoration of Sacred Mountains in Japan ", Harvard University (米国) 2018

Heather Blair, Proximate Context and Probable Cause: Reconsidering the Nun Hōyaku 法薬尼 and the 1114 Sutra Burial at Mt. Koya, 同上、2018

Tsuyoshi Kawasaki, Legitimacy for Shugendo, Supported by Forged Origins and History(Invited Talk), The Buddhist Studies Seminar at Columbia University (米) 2018

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 仁木 夏実

ローマ字氏名: Niki Natsumi

所属研究機関名：明石工業高等専門学科

部局名：その他部局等

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40367925

(2)研究協力者

研究協力者氏名：大河内 智之

ローマ字氏名：Okochi Tomoyuki

研究協力者氏名：ブレア、ヘザー

ローマ字氏名：Blair , Heather

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。